

諦める 「かまわない」の手まねをして(すなわち小指の指頭を下口唇を二三度叩く)次に五指の指頭を上になさし掌を右向けにした右手を左胸上につけ、それをそのまま斜めに降ろして行く。胸にたたみ置くと云う心得。

悪(悪い) 指頭を上になさした人差指を鼻頭の上を右から左へこすって通過させる。「善い」と云う手まねが鼻の上に乗を持って行って「天狗」を表わすのに対して、「悪い」の手まねはその「天狗鼻」を切る意味である。

飽く 親指の指頭を上になさした手を胸にびったりつけ、折り曲げた四指を軸にして親指を下へ廻して降す。胸一杯つまっていやになつたと云う表情。

厭く 掌を胸にびったりつけてから、前へ弾ね返らせる。いやになつて胸が悪いと云う表情。

悪意 親指の指頭を上になさした右の手を腹の右脇につけ、親指を曲げ伸ばしながら、腹の上を左へ移動させる。腹の中(心)がねじけている意地悪すなわち悪意である。

悪口 悪の手まねをして、指頭を上になさした人差指を口唇にあてがってから、前へまっすぐにさし出す。言葉の口から吐き出す。すなわち「云う」の手まねである。

悪徳 道徳(修身、倫理)——はずれる(適しない)

悪人 悪意——人々(或は単数では男性、又は女性)

明ける 「明るい」と同じ手まね。

開ける 五指の指頭を上になさし、掌を前向けた両手を左右にならべ合わせ(両手の親指ふつけ合わす)て、それを開き戸を開けるように、(両手の掌をクルリと内側に反転させて右に離して行く)。

あこがれる 思い忍ぶ（思い焦れる）と同じ手まね。

朝 寝るの身振から、「起きる」と頭をもたげる。

勢く 嘘一云う。

浅間しい 「悲しい」「なさけない」と同じ手まね。

味 「うまい」の手まねの例の二。

明日 「一つ一未来」を見よ。

悪しからず 悪い一ごめんなさい。「悪」の手まねをして、片手にて拜みあやまる身振りをする。

足駄 掌を下向けにした左手を足駄の台として、右手を足駄の南のつもりで、左掌の下に横直角に前そして後につける。

預かる 右手に物を受け取る動作（さし出した手を胸許に返す）をして、その掌を（五指をやや曲げて）右肩に被せるように置く。

右手掌を右肩に被せるように置くことを「負う」と云うことで、「責任を負う」ことになる。手もとに受け取って置いて責任を持つとのこと。

預ける 右手にて物を手渡す動作（胸もとから手を前へさし出す）をして、その掌を（五手を彎曲して）右肩に被せるように一旦置いてから、すぐにその手を前へさし出す。一旦肩に置いた手を前へさし出すのは、責任を渡す、即ち責任を先方に持って貰うと云うこと。手渡した物に責任をもって置いて貰うとのこと。

焦せる 下腹部の位置に、掌を上向け五指の指頭を左にさした右手。これも掌を上向け五指の指頭を右にさした左手。この両手を交互に上下する運動。心落ちつかぬ様。

遊ぶ 両手のそれぞれ指頭を上にした人差指を顔の両側にして、交互に前後に運動さ